

作目名	みずな
-----	-----

作型名	周年栽培（平坦地）
-----	-----------

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
周年																																					京みぞれ 城南千筋

○ は種 ■ 収穫 () パイプハウス

○栽培体系設定の条件

(1) 対象地域

西濃、岐阜、中濃

(2) 立地条件

①気象条件

高温・低温に強いため広範囲に栽培できるが、パイプハウスを利用した周年栽培を行う場合、積雪の少ない地域が望ましい。また、年間8回以上の作付け可能地域としては、年平均気温14～15℃地域が望ましい。

②ほ場条件

土壌適応性は広いが、排水のよい深い耕土が適し、腐植を多く含んだ砂質土壌が良い。降雨を防ぐため全期間パイプハウス栽培とし、かん水施設が必要。水田利用では暗きよ・明きよによる排水路の確保が必要。

③栽植株数（10a当たり）

80,000～100,000株

④目標収量（10a当たり）

10 a 1 作あたり	3～4月、9～10月	900kg	（春秋）
	5～9月	800kg	（夏）
	11～2月	1,000kg	（冬）
10 a あたり年間	7,000 k g	（年間8作、春秋2作、夏4作、冬2作）	

○施肥基準

(1) 施肥基準量 (10a当たり成分量・kg)

施肥成分	総量		基肥	追肥
窒素	化学肥料由来	0		
	有機質肥料由来	10～15	10～15	
りん酸	10		10	
加里	10～15		10～15	

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 苦土石灰は半年に1回、作付前に土壌酸度を測定しその量を決定する。
- 3 微量元素の欠乏が心配される場合は、F T E 10a当たり4kg施用する（年1回程度）。
- 4 前作の生育状態をみて施肥量を加減する。
- 5 極端な節水管理は肥効低下・要素欠乏の原因となるので、かん水量に留意し生育促進を図る。